

東日

# 11月21日、蒲郡マラソン

## 三河湾を望む 星越海岸で初開催 エントリー10月末まで

三河湾を望む蒲郡市の星越海岸で11月21日、「海・みなと・蒲郡マラソン」が初めて開かれる。テーマパーク「ラグナシア」(同市海陽町)を発着点とするハーフ21キロとクォーター10・5キロの2コース。エントリーは今年26日から10月末まで、ウェブサイト「スポーツエントリー」や「ランネット」で受け付けている。

日本財団の「海と日本プロジェクト」の一環で、「海・みなと・蒲郡実行委員会」(小田泰久委員長)が主催。来年度以降も継続する予定だ。参加費はいずれも無料。新型コロナウイルス感染症対策のため、参加者枠を当初の計画から半減の1280人にした。さらにスタート時の密集を避けるため、開始時刻を分散する。参加費は、いずれもラグナシア入園券付

までハーフ4000円、クォーター3500円。参加資格は、ハーフが18歳以上で3時間以内で完走できる人。クォーターは中学生以上が対象で、制限時間は1時間半。問い合わせは、実行委事務局(市企画政策課) 電話0533(66)1162まで。(多田羅有美)



「海・みなと・蒲郡マラソン」のチラシ

東愛知

# 若者の力借り街を活性化

## 蒲郡市と愛知工科大が連携 元気な地元企業紹介し地域振興

蒲郡市と愛知工科大学(西追町)は、地域振興を目的に学生と企業の協力による「地域活性化プロジェクト」を実施した。蒲郡では少子高齢化による地域活動の担い手不足やユニティの衰退、まちの活力低下などが問題になりつつある。市では問題解決に向け、

4月頃に同学科33人の学生が数グループに分かれて話し合い、紹介したい企業を決めて直接連絡。飲食や食品製造、住宅、サービスなど各業種の7社が応じ、6月から取材を開始した。その中で、山田託也さん、馬場達太郎さん、鈴木春輝さんらのグループは21日、三河木綿を使った織物工場「イチオリ」(鹿島町)を訪れた。



作業風景を撮影する山田さん、馬場さん、鈴木さん(左から)＝鹿島町で

事前に市川裕茂代表と打ち合わせを重ねて取材の段取りを決めており、3人は商品の検品や梱包(こんぼう)、織物の製造風景などをカメラやスマートフォンを使って撮影しながら撮影した。動画は3～5分にまとめる予定で、山田さんは「動画を通して市や企業のPRができたらいいいと思います」と話した。動画は7月～8月頃に完成させ、校内で開く発表会で紹介する予定という。(林大朗)

中日



36

「学校のプールみたいな海になってしまふ。蒲郡市も浄化センターから流す栄養塩の量を増やしてほしい」

二〇一九年一月、蒲郡市内の漁協幹部らが市役所を訪れて訴えた。植物プランクトンが育つのに必要な海中の窒素、リンなどの栄養塩が不足する「貧栄養化」が、アサリの不漁につながっているのではないかと。そんな認識が漁業者の間にも広がっていた。

既に愛知県は一七七年から、三河湾に注ぐ豊川と矢作川の浄化センターで、アサリの餌が少なくなる冬場に限定し、下水処理水に含まれるリン濃度を意図的に上げる「管理運転」を試行。放流口から近い漁場で

は、アサリが大きくなる効果も確認された。漁協は市と同様の取り組みを求める要望書を毎年提出している。私の世代は「処理水はきれいにすればいい」と思っていたが、今は「処理水はきれいにすればいい」と思っていない。陸から海に排出される栄養塩は、プランクトンが異常に増える原因になっている。だが、豊川や矢作川の浄化センターが薬品の量によってリンなどの放出量を調整している。規制値をきりぎり超えない範囲で栄養塩を増やす技術は確立しておらず、「コントロールできない」といっている。

他の地域では、水質規制の在り方を見直す動きも出ている。愛知県は、貧栄養化が問題となった瀬戸内海に流す処理水の窒素濃度を上げる管理運転を〇八年から実施。養殖ノリの色落ちを防ぐ効果も上げた。さらに対策を進めるため、瀬戸内海の沿岸十三府県では、海域干潟を造ってアサリをすまわせ、赤潮を吸収する循環をつくることで、貧栄養水塊を抑える方向にしなければいけない」と説く。

## アサリは語る ①

# 「豊かな海」へ発想転換



豊橋市の六条潟で採取されたアサリの稚貝。県内の各漁場に移植放流するため、成育状況を定期的に調べている。蒲郡市の県水産試験場で



愛知県は現状、規制値を超える栄養塩を流せないが、冬場の管理運転は続ける方針。三谷漁協の小林俊雄組合長(左)は「十年かけて悪くなってきた海が、急に良くなることはない」と話す一方、「昨年、海にアサリが出るようになった。徐々に良くなる兆しもある」と期待を寄せている。(木下大資) 随時掲載

貧栄養水塊 海底に沈んだプランクトンの死骸などの有機物を分解するために、バクテリアが酸素を消費することで発生する。普段は海底付近にあるが、強風で表層の水が押し流されて海面に浮上すると「苦潮(にがしほ)」になり、魚やアサリを酸欠で死滅させることもある。三河湾のような内湾で生じやすい。